

身木とも見えたり攝州豊島郡の勝尾寺に百濟國より送りし白心樹あり今尙荒神廟の後に株杭遺れるよし元亨釋書便蒙にみゆ、

〔爾雅註疏九釋木〕樅松葉柏身註今大廟梁材用此木戸子所謂松柏之具不知堂密之有美樅樅切七樅

柏葉松身註詩曰檜楫松舟疏此辨樅之異名也松葉柏身者名樅柏葉松身者名檜郭云今大廟

曰檜楫松舟者鄒風竹竿篇文也毛傳云楫所以擢舟是也

〔和漢三才圖會八十二〕樅圓柏 俗云柏杉〇中

按樅高者二丈餘樹皮似杉及檜而材不堪用葉似柏而尖硬微似杉甚茂盛其枝極隱不見葉與身皆曲蓋此柏與杉相半者也俗爲柏杉人植庭園愛其緣葉也不結實但本草所言則檜與樅混註而已、
一種ハヒ跋柏杉 其木葉似樅而如蔓跋行橫延數丈插枝亦生植之庭砌撓爲龍虎船車之形、

〔新撰字鏡木〕樅古活反箭進也檜也箭末曰樅會也布彌太

〔古事談三僧行〕此寺〇東三月十四日有大會號花嚴會佛前立高座講師登テ講花嚴經但法會中間講師自高座下テ自後戸逐電云々此事古老傳云昔建立此寺之時有賣鯖之翁天皇召留之爲大會講師所持ノ鯖置經机之上魚爰爲八十花嚴經魚數八十隻云々翁登高座講說之間梵語ヲ囀ケリ法會中間乍高座上化失了荷鯖之木大佛殿東面廊前ニ突立忽成樹枝葉是白身木也云々彼會講師于今法會ノ中間ニ逐電也件樹燒失之時燒了

〔宇治拾遺物語八〕これもいまはむかし東大寺に恒例の大法會あり花嚴會とぞいふ大佛殿のうち高座をたて講師のぼりて堂のうしろよりかひけつやうにして逃ていづるなり古老つたへていはく御堂建立のはじめ鯖賣翁きたる〇中鯖をうる翁杖をもちて鯖をになふ其鯖の數八十則變じて八十花嚴經となる件の杖の木大佛殿の内東回廊の前につきたつ忽に枝葉をなすこれ白榛の木也今伽藍のさかへおとろへんとするにまたがひてこの木さかへ枯といふ